



園だより ～きづき～

キ3園 第53号

2025年9月号

キッズワールドサード保育園

園長 是永 妃富

まだまだ暑い日が続き、残暑をどう楽しみましょう…と言う日々です。

例年に比べ暑い日が多かった今年ですが、もう9月です。涼しくなるのを期待したいですね。

さて、今月は、おまつりごっこがあります。水族館がテーマで職員が工夫していろいろ楽しめるようにしています。どうぞお越しください。



お弁当日は9月/27(土)です

9月行事予定

- 1日(月) 避難訓練
- 9日(火) 身体計測
- 13日(土)おまつりごっこ
- 18日(木) 健康診断
- 11月15日(土)運動会ごっこ

お知らせ・お願い

- ・9月13日(土)はお祭りごっこです。どうぞご親子でお越しください。
わからないことがありましたら、担任におたずねください。
- ・暑くて体調の悪くなるお子さんがいます。下痢・発熱・中耳炎・結膜炎・とびひ等…病院の受診をお願いします。
- ・この暑さで体温調節が難しい子ども達…十分な睡眠、食事、温度調節をお願いします。
- ・欠席の場合9時までに連絡を入れていただきたいです。 554-8500に電話をください。

7月子どもたちの様



・プール遊びが終わりました。毎日準備をありがとうございました。
ちょっと日焼けした子どもたち…楽しかった…と言ってプールからでてきます。水着をきることが嬉しい、水に慣れたことも嬉しい、そして自分で着替えが少しできるようになった1歳児さん・2歳児さんはほとんど自分でできます。大きな進歩です。「また、来年いっぱいプール遊びをしようね」と言って終わりました。

キッドエッセイ 71

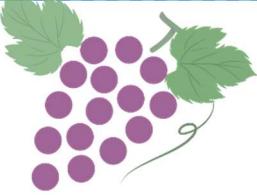
総合園長 牧野桂一先生

今年度も牧野先生が、子どもの心理についてエッセイを書いてくれています。

共感したり、発見があつたりします。読まれてください。



キッドエッセイ 71



牧野 桂一先生

子どもが見る大人の世界と大人の受け止め

幼い頃、「なんで大人はこんなことをいうんだろう」というような気持ちを抱いた記憶は、みなさんがもっているのではないでしょうか。このように乳幼児期の子どもは、大人の様子をよく見ていて、そこから多くの情報を得て、大人のことを考えていますが、それだけでは、大人の世界が理解できない発達上の課題もあるのです。したがって、この年齢段階の子どもは、大人の世界をこのように見ているという子どもの世界の見方、見え方を身近で子どもと接して生活している大人である私たちは十分に子どもの世界を理解しておかなければなりません。今回は、そのような子どもが見る大人の世界のことを発達心理に基づいて考えていきたいと思います。

子どもは、生まれてすぐの乳児の段階から、すでに周りの大人の様子を顔の表情や視線を意識しながら見ていてさまざまな情報を受け取っているといいます。発達心理学者であるバロン・コーベン博士は、「子どもが社会性を身につけていく過程の中でもこのような人間の顔や視線の認知が特に重要である」といいます。

そこで、まず最初に、子どもたちが回りの世界の視覚的な情報をどのように認識していくのかということを年齢別に確認していきたいと思います。

◆ 0歳から1歳児



まず最初は、0歳から1歳までの乳児期の子どもです。

乳児期には周りの大人に愛され大切にされることで人間としての絆が深まり、情緒の安定や人の信頼感が育まれていきます。そして、目と目を合わせるアイコンタクトや肌と肌の触れ合うスキンシップで周りの大人の愛情を感じ取り、愛着を形成し、安心感を育てていきます。

その子どもたちが、3ヶ月を過ぎてくると回りの動くものに目をつけてそれを目で追いかける「追視」をするようになります。そして、他の人の視線を追って自分もそちらの方を見る「視線追従」ができるようになります。そして、人間の表情に対する興味・関心を持ち、周りの大人の視線や声、表情やジェスチャーを通じて相手の感情を読み取る能力が育ってきます。

その子どもたちが、7ヶ月を過ぎてくると人間の表情の理解はもっと進み、9ヶ月頃からは、周りの大人の考えている意図や、自分の考えている意思が少しづつ理解できるようになるといわれています。

◆ 1歳から3歳児



1歳になると子どもは、新しいものや初めて見るものがあると、その安全性などを確かめるために、周りの大人などの顔の表情や身体の動きを見て確かめる「社会的参照」ということが現れてきます。つまり、周りの大人の発する情報から私たちが生きている広い世界に対する知識をつけていくため、保護者や保育者など周りの大人が外界に対して向ける表情や態度なども、子どもたちに大きな影響を与えます。

◆ 3歳から5歳児



子どもたちは、生まれてから5歳頃までに、脳を中心とした神経系統の成長はだいたい80%くらいまでできあがり、6歳までには90%まで発達し完成に近づいてきます。そして、5歳頃には、基本的な表情をしている絵を見せてみると、その絵の顔が怒っているのか、笑っているのか、悲しんでいるのかなどといった絵に出ている人間の表情から感情を十分に理解できるようになります。

◆ 6歳児以上の子ども



6歳を越えてくると子どもたちは、人は本当に感じている感情とは違った感情を表わすことがあるということを理解し認知できるようになります。したがって、6歳以前には見かけの表情などの外的要因が子どもの判断材料になっていたので、表面的に人の感情を受け取ってしまう傾向があります。

これらの年齢特性を踏まえて、実際に子どもたちと接する際に気をつけたいポイントには、「子どもと目と目を合わせて話すこと」「子どもの目線に合わせて大人の目線高さを合わせて話すこと」「話しているときの目の表情子どもが見ていることを意識すること」「喜怒哀楽の表情が子どもに伝わるように気を配ること」「表情と感情を一致させるように配慮すること」「子どもの目に入る場所で愚痴や人の悪口は言わない」などがありますが、今回は、紙面が足りなくなりましたので、次回に詳しく説明していきたいと思います。

